

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4932982号
(P4932982)

(45) 発行日 平成24年5月16日(2012.5.16)

(24) 登録日 平成24年2月24日(2012.2.24)

(51) Int.Cl.

F I

G 0 9 F 3/02 (2006.01)
B 4 2 D 11/00 (2006.01)G O 9 F 3/02 M
B 4 2 D 11/00 E

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-195524 (P2000-195524)
(22) 出願日 平成12年6月29日(2000.6.29)
(65) 公開番号 特開2002-14617 (P2002-14617A)
(43) 公開日 平成14年1月18日(2002.1.18)
審査請求日 平成19年6月19日(2007.6.19)(73) 特許権者 000130581
サトーホールディングス株式会社
東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
(72) 発明者 田巻 俊二
東京都渋谷区渋谷1丁目15番5号
株式会社サトー内

審査官 宮本 昭彦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 荷札

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

台紙と、この台紙上に粘着剤を介して剥離可能に仮着された表示ラベルとからなる荷札であって、

前記表示ラベルには、

配送先および送り元を記入する配送情報が記載される情報領域と、受領印としての押印部を有した受領確認領域と、を有し、

前記受領確認領域を切り離し可能に設けられた切り込みと、

前記受領確認領域に形成した前記切り込みを囲むように前記台紙に形成した切り込みと

、
前記情報領域と前記受領確認領域とに跨って荷情報に関するバーコードが印刷されており、

前記台紙に形成した切り込みにより、前記受領確認領域の台紙が前記表示ラベルに貼り付いた状態で情報領域の粘着剤が露出して、

前記粘着剤を介して荷物に貼付することを特徴とする荷札。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、流通等において配送される荷物に貼付されて、配送先や配送元の情報、ならびに、配送後の受領確認を得られるようにした荷札に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、荷物に貼付されて、配送先や配送元の情報、ならびに、配送後において受領確認を得られるようにした荷札が、たとえば、特開平 8 - 3 6 3 5 9 号公報において提案されている。

【 0 0 0 3 】

この従来における荷札は、台紙上に、粘着層を介して第 1 の荷札を積層し、さらに、この第 1 の荷札上に、粘着層を介して第 2 の荷札を積層した構成となっており、第 2 の荷札に書き込まれる配送先や配送元の情報が、下方の第 1 の荷札に転写され、また、第 2 の荷札には、受領印等が押印される受領確認領域が形成されている。

10

【 0 0 0 4 】

そして、荷物の配送時に、作業員は、第 2 の荷札に記載されている配送先の情報に基づき配送を行い、配送先に配送したときに、第 2 の荷札に形成されている受領確認領域に受領印をもらった後に、この第 2 の荷札を剥離して受領証とし、第 1 の荷札は、荷物に貼付した状態で残されるようになっている。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、このような従来の荷札にあっては、ほぼ同一形状の荷札を 2 枚積層した構成であることから、荷札全体を構成する用紙の量が多いといった不具合や、これらを剥離可能に仮着する粘着剤の量も多量なものとなるといった不具合がある。

20

【 0 0 0 6 】

本発明は、このような従来の問題点に鑑みてなされたもので、荷札に要求される機能を確保しつつ、使用する材料を極力少なくすることの可能な荷札を提供することを目的とする。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

本発明の請求項 1 に記載の荷札は、前述した目的を達成するために、台紙と、この台紙上に粘着剤を介して剥離可能に仮着された表示ラベルとからなる荷札であって、前記表示ラベルには、配送先および送り元を記入する配送情報が記載される情報領域と、受領印としての押印部を有した受領確認領域と、を有し、前記受領確認領域を切り離し可能に設けられた切り込みと、前記受領確認領域に形成した前記切り込みを囲むように前記台紙に形成した切り込みと、前記情報領域と前記受領確認領域とに跨って荷情報に関するバーコードが印刷されており、前記台紙に形成した切り込みにより、前記受領確認領域の台紙が前記表示ラベルに貼り付いた状態で情報領域の粘着剤が露出して、前記粘着剤を介して荷物に貼付することを特徴とする。

30

【 0 0 0 8 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態について図面を参照して説明する。

図 1 および図 2 において符号 1 で示す荷札は、台紙 2 と、この台紙 2 上に粘着剤 2 を介して剥離可能に仮着された表示ラベル 3 とからなり、この表示ラベル 3 には、配送情報が記載される情報領域 A と、この情報領域 A の近傍に切り離し可能に設けられた受領確認領域 B とが設けられ、前記台紙 2 に、前記受領確認領域 B に対応する部位を他の台紙部分から切り離し可能にする切り込み 4 を形成した概略構成となっている。

40

【 0 0 0 9 】

前記情報領域 A には、配送先の郵便番号や電話番号、また、住所や氏名等を記入する第 1 の情報領域 5 と、送り元の郵便番号や電話番号、また、住所や氏名等を記入する第 2 の情報領域 6 とが形成されている。

【 0 0 1 0 】

また、前記受領確認領域 B は、略長形状に形成されており、その領域に沿った切り込み 4 によって、前記情報領域 A から切り離し可能となされている。

50

【 0 0 1 1 】

さらに、前記台紙 2 に形成された切り込み 7 は、図 1 に示すように、前記受領確認領域 B を形成する切り込み 4 を取り囲むようにして形成されており、前記受領確認領域 B には、受領印の押印部 8 が形成されている。

【 0 0 1 2 】

一方、本実施形態においては、図 1 に示すように、前記受領確認領域 B に、荷情報に関するバーコード 9 が印刷されており、このバーコード 9 は、前記受領確認領域 B および情報領域 A とに、同一の荷情報が記載されるように、これらの両領域 A・B に跨って印刷されている。

【 0 0 1 3 】

ついで、このように構成された本実施形態の荷札 1 の使用方法について説明する。

【 0 0 1 4 】

まず、第 1 の情報領域 5 および第 2 の情報領域 6 のそれぞれに必要な事項を記入した後に、台紙 2 を剥離する。

このとき、前記台紙 2 には、受領確認領域 B に対応した部位に切り込み 7 が形成されていることにより、図 3 に示すように、この受領確認領域 B に対応した部位が、前記表示ラベル 3 に貼り付いた状態で台紙 2 が剥離され、前記受領確認領域 B に対応した部位以外の部分において粘着剤 Z が露出させられた状態となされる。

【 0 0 1 5 】

この状態において前記表示ラベル 3 を、配送すべき荷物の所定位置に、前記粘着剤 Z により貼付する。

これによって、荷物に、その配送情報が表示され、配送手続きが可能となる。

【 0 0 1 6 】

そして、配送先においては、受取人による受領印押印部 8 への押印が完了すると、図 4 ないし図 6 に示すように、受領確認領域 B を表示ラベル 3 から剥離し、受領証として使用する。

このようにして剥離された受領確認領域 B は、その裏面に粘着剤 Z が残っていることから、この受領確認領域 B を、粘着剤 Z を用いて配達記録帳等に貼付することが可能である。

【 0 0 1 7 】

このように、本発明の荷札 1 にあっては、1 枚の表示ラベル 3 によって、配送情報の表示機能と、受領証の発行機能とを確保することができ、荷札 1 に要求される機能を確保しつつ、使用する材料を極力少なくすることができる。

【 0 0 1 8 】

さらに、本実施形態においては、荷情報に関するバーコード 9 が印刷されており、このバーコード 9 が、前記受領確認領域 B および情報領域 A とに、同一の荷情報が記載されるように、これらの両領域 A・B に跨って印刷されていることにより、受領証として剥離される受領確認領域 B に残る荷情報と、配送された荷物に残る表示ラベル 3 との荷情報が確実に一致する。

【 0 0 1 9 】

なお、前記実施形態において示した各構成部材の諸形状や寸法等は一例であって、設計要求等に基づき種々変更可能である。

たとえば、前記情報領域 A のレイアウト等は、荷札の使用目的等によって適宜変更されるものであり、また、受領確認領域 B の形状もまた任意に設定されるものである。

【 0 0 2 0 】

【 発明の効果 】

以上説明したように、本発明に係わる荷札によれば、1 枚の表示ラベルによって、配送情報の表示機能と、受領証の発行機能とを確保することができ、荷札に要求される機能を確保しつつ、使用する材料を極力少なくすることができる。

また、荷情報に関するバーコードを、前記受領確認領域および情報領域とに、同一の荷情報が記載されるように、これらの両領域に跨って印刷することにより、受領証として剥離

10

20

30

40

50

される受領確認領域に残る荷情報と、配送された荷物に残る表示ラベルとの荷情報を確実に一致させることができる。

さらに、既存のラベルに切り込みを入れるといった簡単な加工によって本発明の荷札が得られ、既存のラベルを有効利用することも可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態を示す正面図である。

【図 2】本発明の一実施形態を示す縦断面図である。

【図 3】本発明の一実施形態を示すもので、台紙を剥離した状態を示す縦断面図である。

【図 4】本発明の一実施形態を示すもので、受領確認領域を剥離した状態を示す縦断面図である。

10

【図 5】本発明の一実施形態を示すもので、受領確認領域を剥離した状態を示す正面図である。

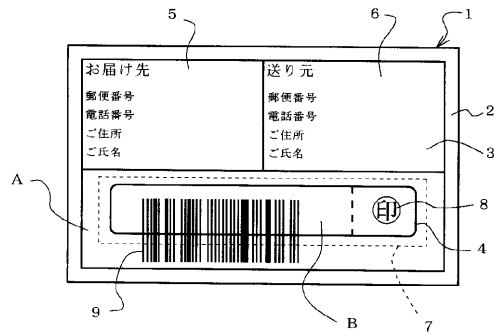
【図 6】本発明の一実施形態を示すもので、剥離した受領確認領域を示す正面図である。

【符号の説明】

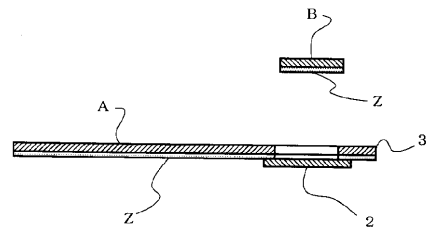
- 1 荷札
- 2 台紙
- 3 表示ラベル
- 4 切り込み
- 5 第 1 の情報領域
- 6 第 2 の情報領域
- 7 切り込み
- 8 受領印押印部
- 9 バーコード
- A 情報領域
- B 受領確認領域
- Z 粘着剤

20

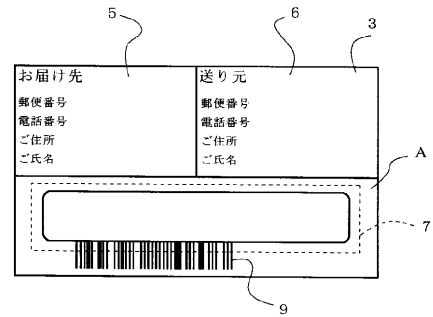
【図 1】



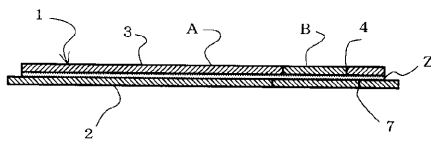
【図 4】



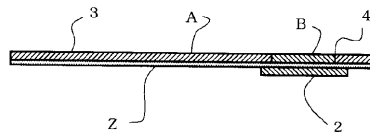
【図 5】



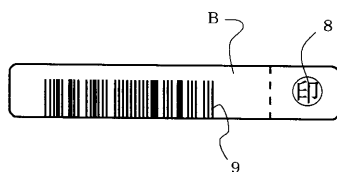
【図 2】



【図 3】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平 07 - 266746 (JP, A)
特開平 09 - 068925 (JP, A)
実開平 03 - 103479 (JP, U)
特開平 09 - 142061 (JP, A)
登録実用新案第 3027040 (JP, U)
特開平 10 - 310120 (JP, A)
特開平 08 - 036360 (JP, A)
特開平 03 - 177883 (JP, A)
登録実用新案第 3062563 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09F 3/00 - 3/20

B42D 11/00